

記入例

農地法第5条第1項の

※手書きでの記入には、黒のボールペンを使ってください。
 (鉛筆・消せるペンは使わないでください)
 ※記入内容を間違えた場合、二重線=で訂正し、訂正印を押印してください。(修正テープ・修正液は使わないでください)

大分県知事 殿

賃借権、使用貸借権などの権利設定の場合は、譲受人を借人、譲渡人を貸人というように訂正

譲受人 氏名 ○○ ○○
 譲渡人 氏名

※押印はいりません

譲受人又は譲渡人が複数のときは、何某外○名とし、裏面の別紙1に記載

下記のとおり転用のため農地(採草放牧地)の権利を設定(移転)したいので農地法第5条第1項に基づき申請いたします。

法人が申請人となる場合は、○○株式会社代表取締役○○と記載

1 当事者の住所等	当事者の別	氏 名	住
	譲受人	○○ ○○	大分県 玖珠郡 玖珠町 大字○○ ○○番地の○
	譲渡人	△△ △△	大分県 玖珠郡 玖珠町 大字△△ △△番地

2 許可を受けようとする土地の所在等	土地の所在		地 番	地 目		面 積 ㎡	所有権以外の使用収益権が設定されている場合		市街化区域、市街化調整区域その他の区域の別
			登記簿	現況	権利の種類		権利者の氏名又は名称		
	玖珠町大字○○○字○○○		○○○	田	田	150			
玖珠町大字○○○字○○○		△△-△	畑	畑	100			都市計画区域外	
		計	250 ㎡ (田 150 ㎡ 畑 100 ㎡)		採草放牧地		転用の理由について記載		

住所・氏名は、住民票または法人登記のとおりに記載すること

3 転用計画	(1) 転用の目的	(例)一般住宅/農家用住宅/駐車場用地/植林用地等	(2) 権利を設定し又は移転しようとする理由の詳細	(例)自己住宅建築のため/事業の拡張のため/平成○○年頃すでに自己住宅の敷地として利用しているため
	(3) 事業の操業期間又は施設の利用期間	年 月 日から ← 年 月 日まで		

一時転用の場合は期間を記入。一時転用以外は「許可あり次第永久」でもよい

(4) 転用の時期及び転用の目的に係る事業又は施設の概要	工事計画	第1期(着工○○年○月○日から○○年○月○日まで)				第2期(着工 年 月 日から 年 月 日まで)				合 計		
		名称	棟数	建築面積	所要面積	名称	棟数	建築面積	所要面積	棟数	建築面積	所要面積
	土地造成			250							250	
	建築物	居宅	1	150							150	
	小 計											
	工作物	車庫	1	25							25	
	小 計											
計		1	150	250							250	

必ず工事期間を記入すること。始期は「許可日」でもよい

「建築面積」は一階部分のみ記入すること

資金調達明細書のとおり記入すること

4 権利を設定・移転しようとする契約の内容	権利の種類	権利の設定・移転の別	権利の設定・移転の時期	権利の存続期間	その他
	(例)所有権/賃借権/使用貸借権	設定 ○ 移転	許可あり次第	永久/○○年	

5 資金調達についての計画	(1)必要資金		(2)調達内訳	
	・建築費 15,000,000 円	・その他 2,000,000 円	・自己資金 10,000,000 円	
	・造成費 1,000,000 円	・合計 18,000,000 円	・借入金 10,000,000 円	

6 転用することによって生ずる付近の土地・作物・家畜等の被害防除施設の概要
 (例)・隣接境界にはL型擁壁を設置するため土砂の流出や崩壊の恐れはない。
 ・その他周辺の農地に係る営農条件等への影響はない。
 ・農業用水路の分断はない。(農業用排水施設はない。)、農道への影響はない。
 もし、問題が生じた場合は、責任を持って速やかに解決する。…等記入のこと

6 未完了の既許可事業 なし ← どのように被害を防除するのか具体的に記入すること

7 その他参考となるべき事項 町内外での、未完了の転用許可の有無